

ワルド(ヴァルド)派

キリスト教の民衆による信徒宣教運動の説教集団。中世のフランス王国の主要都市の一つリヨンの富裕な商人であったピエール・ワルドー（ヴァルド）が、2年に、[聖者アレクシスの物語](#)に感動し、全財産をなげうって、使徒の生活にならった清貧を実践、キリストの福音を広めようとした。

ワルド（ヴァルド、以下ワルドと表記する）は教会から公式な説教の許可を得ようとしたが、リヨンの大司教に拒否された。また、24年の第3ラテラン公会議— 24年 月にローマのサン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂に隣接していたラテラノ宮殿で行われたカトリック教会の公会議—に代表者を派遣し、教皇アレクサンドル3世と司教団の許可を得ようとしたが、これは保留となった。結果、ワルドは3年頃リヨン大司教に破門され、3年には教皇ルキウス3世から異端宣告を受けた。

「教会権威の軽視」が異端宣告の理由で、教会上層部はワルド派が統制を受けずに自由に説教を行うことを危険視したものとされている。

3年に「異端」とされて以来、長らく地下活動を続けてきた。さらに 年の宗教改革で改革派と教理的に合同した後も「ワルド派」としての組織、名称を守り続けてきている。異端視された宗派のほとんどが歴史から消えていった中で、ワルド派は絶えることなく今日に至っている。近年では福音主義的・聖書主義的特性から宗教改革の先駆とも評されている。



ワルド派教会シンボルマーク LUX LUCET IN TENEBRIS

ヨハネ：の「光は暗闇の中で輝いている」という一文に由来しており、ワルド派が「福音の光」をもたらす燭台のような存在であることを意味している。

→ヨハネによる福音書：光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

※ワルド派については、「[各時代の争闘](#)（第4章 真理の擁護者たち）に詳しく記されています。